

「不思議の国、北欧ブランド」

ご挨拶をさせていただきます。9月30日(火)、弊社は何とか無事に「第五期」の決算を迎えることができました。これもひとえに皆様のご厚情のおかげです。本当にありがとうございました。m(_ _)m、今後もさらに一層の精進を重ねる覚悟しております。よろしくお祈りします。で、たまには発注なんてやつ



←本当にお待ちしておりますm(_ _)m。

もいただけるととてもうれしいのです。あ、そのまだ、何も発注していないとお悩みのあなた、いいのです、いつまでもお待ちしております(笑)。

でもすっかり秋の気配ではなくて、秋ですね、今朝は布団二枚がけで心地よい目覚めでした。会社のエアコンも動いている時間がどんどん短くなります。と、まあのんびりしているわけではありませんが、困りました。**世界経済のクレジット・クランチ(信用収縮)が止まりません**。米国下院が「金融関連法案」を否決したと言うニュースを聞いた時は、思わず頭を抱えましたが、何とか上院→再び下院と言う流れが出来ているようです。先延ばし、時間稼ぎなのは十分にわかっているのですが、今回は1929年の大恐慌を遥かに超える可能性があります。今は当時とは違い、遥かにグローバリゼーションが進んでいます。どこか、日本だけは大丈夫なんて言うニュアンスの報道が多いのですが、世界中が大不況に陥れば日本だけなぜ助かると思うのでしょうか。理解不能です^^;。当時と違うのは、世界の首脳(首長、中央銀行総裁)がリアルタイムに情報交換が可能になっていることです。アメリカから始まった今回の金融危機。世界中が協力し合って「最悪のケース」を少しでもやわらげる策が求められています。日本は「バブル時」の経験を生かして、リーダーとして事に当たるべきでしょう。はっきり言って今、「衆院解散」なんて言われていられる状況ではありません。「参議院があるじゃないか」と思ったのですが、ここには学識経験者が多いのですが、こんな危機を乗り切れるような実務家がいません。今必要なのは「豪腕」な政治家でしょう。どっちも似たようなものかな(笑)。

すっかり前段が長くなってしまいました。去年の夏からずっと追いかけてきた「サブ・プライム」からの金融危機。口幅ったいようですが、私の予想は悪い方によくあたっています(T_T)。ここからは、ちょっとマーケティングに戻しましょう。

先日の銀座店開店から数百メートルの行列を作るファッションブランド、「H&M」(ヘネス・アンド・



マウリッツ)。世界中でスピーディな商品展開で人気の低価格衣料ショップです。

その手の店なら「ユニクロ」とか「GAP」があるんじゃないの？と思われた方？残念！（笑）。OLに馬鹿にされますよ。最も違う点は自社ブランドの中に「ハイ・ファッション」と言う言葉を明記し

これを着こなすのってかなりハードル高くないですか（笑）→



ています。「ハイ・ファッション」とは高価と言う意味ではなくて「最先端のモード」という意味です。各地のコレクションで発表された最新ファッションにも遅れをとらないモード感。それでいて値段は圧倒的に安い。先日見たテレビのニュースでは三桁、高くても四桁のお値段の商品が飛ぶように売られていました。加えて商品の回転が非常に早い、売れ筋商品についても追加投入はしない。



常に店頭にあるようなベーシック定番モノはなし。そちらはGAPやユニクロで買ってください、ということでしょうか。

「H&M」の「ハイ・ファッション」の象徴はトップ・デザイナーとのコラボレーション。シャネルを筆



←世界最強の50代女性でしょうね。クリントンよりも影響力が違う

頭に歌手の「マドンナ」とのコラボレーションを実現させています。

で、この会社、本社はフィンランドです。フィンランド？さあ、地図を見て見ましょう。いわゆる北欧。北欧の国の名前をいくつか言えますか？私？完璧でした（嘘）（笑）。

フィンランド、デンマーク、スウェーデン、ベルギー、アイスランド、ノルウェー。です。少し前からなんとなく違和感があつた国々です。なぜか？

国別、**豊かさランキング**などの発表を見ると「？」なぜか北欧の国が高いのです。豊かな国、GDPでしょ、最近落ち目だけどまだ「日本」は世界第二位だよ。でも、GDPの高さが人間の生活の豊かさを見る一面的なものでしかないことは誰しもの生活実感でしょう。「**HDI**」（**Human Development Index**）という考え方があります。人間開発指数とでも訳すのでしょうか。三つの要因を見ます。まずは「出生時の平均余命」、次に「知識」（成人識字率、総就学率）、最後が「人間らしい生活水準」（一人当たりのGDP）。ちなみに最新のデータを見ます。驚きますよ、というか、何で？不思議です。

☆HDIランキング(人間開発報告書 07 年版)

1. アイスランド iceland	11. Finland	21. 香港 Hong Kong, China (SAR)
2. ノルウェー Norway(前年まで 6 年連続 1 位)	12. アメリカ United States	22. ドイツ Germany
3. オーストラリア Australia	13. Spain	23. Israel
4. カナダ Canada	14. Denmark	24. Greece
5. アイルランド Ireland	15. Austria	25. シンガポール Singapore
6. スウェーデン Sweden	16. 英国 United Kingdom	26. 韓国 Korea, Rep. of
7. スイス Switzerland	17. Belgium	27. Slovenia
8. 日本 Japan(7 位)	18. Luxembourg	28. Cyprus
9. オランダ Netherlands	19. New Zealand	29. Portugal
10. フランス France	20. イタリア Italy	30. Brunei Darussalam

よかった、日本はトップテンには入っていませんね。あれだけ豊かな(?)国アメリカが12位!

それよりも、驚きなのは 1位、アイスランド 2位 ノルウェー 6位 スウェーデン

11位 フィンランド 14位デンマーク 17位ベルギー なんと北欧の6カ国は全て20位以内です。

もう一つ別の指標を見て見ましょう。「EPI指数」(Environmental Performance Index)

☆2008 環境ランキング Environmental Performance Index

1 位 スイス	11 位 アイスランド	21 位 日本
2 位 スウェーデン	12 位 カナダ	22 位 エクアドル
3 位 ノルウェー	13 位 ドイツ	23 位 ハンガリー
4 位 フィンランド	14 位 英国	24 位 イタリア
5 位 コスタリカ	15 位 スロベニア	25 位 アルバニア
6 位 オーストリア	16 位 リトアニア	26 位 デンマーク
7 位 ニュージーランド	17 位 スロバキア	27 位 マレーシア
8 位 ラトビア	18 位 ポルトガル	28 位 ロシア
9 位 コロンビア	19 位 エストニア	29 位 チリ
10 位 フランス	20 位 クロアチア	30 位 スペイン

ここでも、北欧勢が目立ちます。2位、3位、4位、11位、26位

日本はお得意のはずの「環境パフォーマンス」でも21位(T_T)

もう一つ見ます、平和指数(Global Peace Index) またしても上位は北欧各国。

1	アイスランド	5	日本	9	ルクセンブルク
2	デンマーク	6	アイルランド	10	オーストリア
3	ノルウェー	7	ポルトガル	13	スウェーデン
4	ニュージーランド	8	フィンランド	15	ベルギー

なぜこんなことが起こるのでしょうか。こうした北欧の国々は普段の生活の中で触れる事は滅多にありません。私が知っているのは、その昔本当に信じていた「フリーセックスの国スウェーデン」(笑)。



ここで一冊の本に出会います。「フィンランド 豊かさのメソッド」堀内都喜子著

「貧困化する日本と対極! 格差なき成長の秘密とは?」

現地の大学院で学んだ体験からみえた、「教育力」「福祉力」で発展する国の真実。経済協力開発機構(OECD)による生徒の学力調査(PISA)で、フィンランドの子どもたちがトップの成績を挙げて以来、その教育のあり方に注目が集まっている。またフィンランドは、世界経済フォーラム(WEF)の国際競争力ランキングでも、三年連続一位に輝くなど、経済的にも発展している。充実した福祉、女性の社会進出、透明性の高い税金の使途……日本とは対極的とも言える、その成長の秘密はどこに。

(Amazon の内容紹介より)

地政学的に言うと北欧はあまり恵まれた国ではありません。冬は長く、寒く、夏は太陽が沈みません。まあ豊かな海洋資源があるから食うには困らない国かもしれません。かつては税金だけがなくて、それでいてたいした福祉もない国だったのですが、あるときに急に舵を切ったようです。

フィンランドは新しい教育水準と言われる P I S A (The Program for Student Assessment) で世界一。大きな経済成長の見込めない時代、失業率の高さにあえぐ EU を中心に、教育として与えられるのは「**社会で生きていける力**」であると考えた。

考えることを最優先にした教育制度。詰め込みの知識偏重型教育とはおよそ反対に位置しています。正解のない問題を出す。その状況を理解して、自分なりの答えを導く。全く反対の考え方で構わない、自分で考える事を重視する学習方法です。

一人一人がきちんと物事を自分の頭で考える事ができる能力をはぐくむ教育。「H&M」の進出は恐るべきものがあります。なぜなら、**どうしたら日本で商売が成り立つのか、彼らなりの答えを見つけたからです。**世界中にあるのに日本になかった「H&M」。銀座店に続いて、渋谷店、原宿店のオープンが待ち構

ビッケだ、懐かしい^^ ; →



えています。戦いには強いですよ。もともと彼らの先祖は海賊 だったのですから。

次回は十月の中盤。いい季節になりますね。花粉症の私には最高の季節です。

ブログも毎日更新しています! (週休二日で) (笑)。 <http://rresearch.blog103.fc2.com/>

株式会社アール・リサーチ 〒271-0051 千葉県松戸市馬橋 1896-1 ヴィレッジ K・I 馬橋 3 F

Tel 047-342-3181 mobile 090-7428-8999 mail : ryubon@kkd.biglobe.ne.jp